

【課題名】

日本版抗コリンリスクスケールと GLIM 基準による栄養評価との関係についての検討

【研究の概要】

近年、ポリファーマシーと低栄養の関係に関する報告が散見されるが、具体的に低栄養リスクとなる薬効群に関する報告は十分ではない。抗コリン作用を有する薬剤は、高齢患者の認知機能低下、転倒、せん妄、口腔乾燥などの有害事象との関連することが報告されており、患者の栄養状態に影響を及ぼす薬効群の一つと考えられる。2024 年に日本老年薬学会から日本版抗コリンリスクスケール (Japanese Anticholinergic Risk Scale; JARS) が公開された。これは日本で使用可能な薬剤における抗コリン作用を数値化したもので、0~3 点で評価される。総リスクスコアを下げる取り組みをすることで、これからの中高齢者のポリファーマシー対策への活用が期待されている。しかしながら、現時点では JARS と低栄養の関係を明らかにした報告はない。総コリンリスクスコアと世界的な低栄養診断基準である GLIM 基準での低栄養に関係性が認められれば、ポリファーマシー対策への一助となる。そこで今回、地域包括ケア病棟へ入院となった患者の入院時栄養評価と常用薬の総抗コリンリスクスコアを横断的に調査し、JARS の新たな活用方法を検討する。